

行く川の流れば絶えずして...資料館の一部整備

簾舞川は、空沼岳北側の万計沼付近に源を発して全長約11kmを国有林の合間・東西御料(2区・4区)および1区と3区の町境を流れやがて豊平川に合流します。準用河川(市町村長が管理)で橋梁として、旧本願寺街道の「二星橋」、国道230号の「簾舞橋」、旧道の「簾舞川橋」そして定鉄跡・市道の「簾舞通行屋橋」があります。

ダムも砂防もない明治・大正期には、石狩の鱒が豊平川を経由し簾舞川まで遡上し「ヤス」を使って捕らえ、鮭・イワナ・ヤマメなども取れて、それらは全て食材となりました(黒岩ツル氏談)。

その簾舞川縁や通行屋緑地の桜はGWの期間に、例年より早く一気に開花しました。川を背景に垂れ下がった桜の枝をパチリ。



旧西医院跡地からの桜の風景 5月5日

さて今年、保存会の大きな事業として南区・まちセンなどの協力のもとに「郷土資料館」を清掃整備して市民や町民に親しみの持てる施設にと、30年振りに一部を「リニューアル」して行く予定です。

豊滝小学校閉校から、早一年

昨年3月、豊滝小学校は116年の歴史に終止符をうち一年が経ちました。100周年の記念誌を見ますと明治32年に清勝寺の前身の瀧の澤説教所が設けられ金森大心氏により創立され、近くの古木と平衛さんの物置を借りて、子どもたちを集め教鞭をとったことに始まり、33年6月12日に「公立瀧の澤簡易教育所」の認可を受けたことが最初でした。

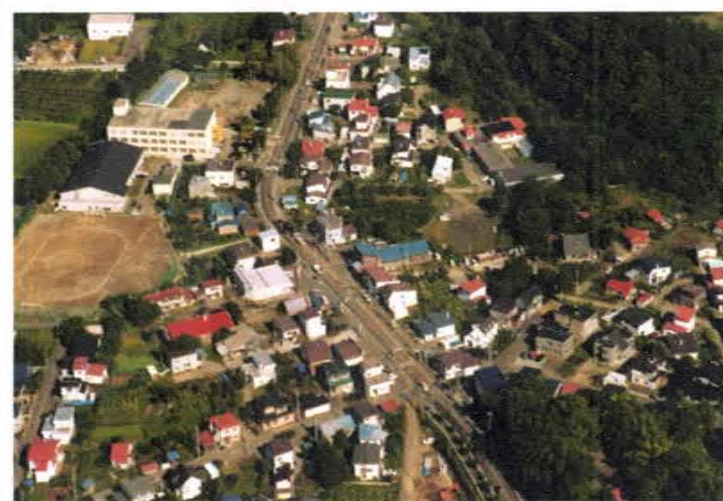


(豊平町立時代の豊滝小学校 撮影 昭和32年)

だ良き日は皆さんの心に刻まれているはずで、その昔八剣山を背に砂利道の七曲がり上がった所の小さな学校、思い出はいつまでも

校歌
♪豊平川のうたきよく
八剣山をあおぎみて
のびる若芽の学舎に
朝の光が呼びかける
「教育」の場としては
終焉となりましたが、
共にここで学び遊ん

通行屋 & 資料館
ここに注目
平成8年の簾舞
3区のように
→
建物はmini開拓村
展示品は昔を語る
物言わぬ学芸員



中央の青い屋根の旧簾舞会館・連絡所を中心に右下に花岡神社と境内地、左上に簾舞小学校、会館前にマルオ・ストアー

地域の歴史シリーズ No.6 2011.5 発行 旧簾舞通行屋保存会

砥山地区は明治32年の御料局の「賃下げ」に始まり、八剣山を東西に挟み上砥山と下砥山に分かれ入植時から観音沢、白川そして御料橋を渡り簾舞で用事を足しました。しかし山が屏風のように立ち上がり道路には非常に不便を感じ、当初は山腹南側の三合目あたり山越えをしたと言われております。明治34年に岩石(旧道)部分にハッパをかけて駄馬道を作り、大正3年にこの岩石道がさらに拡張され馬車道として濁流が渦巻く川への滑落の危険を感じながらも昭和48年の崖崩れ事故で閉鎖されるまで利用されました。(この間に、砥山橋や砥山栄橋が豊平川に架けられ、大変便利になりました)平成11年12月に総工費35億円をかけた八剣山トンネル(760 M)が完成し国道のバイパスとして利用が高まり、同時に上下の砥山が立派な道路で再度結ばれ観光農業地域として知名度を得ております



1.八剣山(501M)と砥山地区の空撮(昭和23年)



2.八剣山の「絶壁」と定鉄(昭10)



3.滝の沢から見た八剣山道路(昭10)



4.閉鎖の八剣山道路と焼山の遠望(昭56)

市道・八剣山道路

(通称・八剣山巖下道路)

資料 簾舞郷土資料館

藻岩(簾舞)ダム(右)

豊平川の雪解け水を放流している状況で、写真家三春久平氏の昭和25年頃の撮影と思われます。豊平峡(昭47)・定山溪(平1)ダムにより、このような水量を見る事もできなくなりました。

簾舞3区町内空撮(左)

旧簾舞会館の取壊しの少し前(平8)当時の南区広聴係の女性職員がヘリコプターに搭乗して撮影をしました。

